



MV88plus

MV88+ビデオキット

The Shure digital stereo condenser microphone, MV88 Plus, user guide.
Version: 4 (2020-A)

Table of Contents

MV88plusMV88+ビデオキット	3	MacとPCでMV88+を使用する	21
概要	3	マイレコーディング	22
特長	3	複数ファイルの変換	23
		再生	23
クイックセットアップ	3	オーディオの編集	24
マイクロホンの取付方法	4	タイムラインの操作	24
ShurePlus MOTIVアプリによるオーディオ録音。	5	ループの作成	25
		マーカー	25
		エディター	26
		分割モードでの編集	27
MV88+マイクロホン	5	MOTIV録音の共有	28
マイクロホンの向き	6	カメラロールへの保存	28
MV88+出力	7	トラックアートワークのカスタマイズ	29
		Dropboxへの保存	29
		AirDrop®とMOTIV	30
		iTunesへの保存	30
マイクロホンの角度設定	7	トラブルシューティング	31
録音	7	ファームウェア	32
		システム要件	32
MOTIVアプリ	11	システム要件および互換性：iOS	32
マイクのセットアップ	12	システム要件および互換性：Android	32
プリセットモード	14	仕様	32
指向特性の選択（ステレオとモノラルの設定）	14	ビット深度サンプリングレート 2448 kHz 2444.1 kHz 1648 kHz 1644.1 kHz 周波数特性	33
モニターミックスブレンダー	16	アクセサリ	34
		付属品	34
録音	18	オプションのアクセサリ	34
ビット深度およびサンプルレート	20	認証	34
		ユーザー情報	35
録音のヒント	20		
機内モードとおやすみモードをオンにする	20		
ロックモードを使用してサウンドをロックする	21		
モノラルでの録音	21		
ステレオでの録音	21		
ダークテーマを使用	21		
完全にパフォーマンスを捉えるには	21		
録音をモニターする	21		
録音中に画面を起動状態に保つ	21		
アップデート中は機器を接続したままにする	21		

MV88plus

MV88+ビデオキット

概要

Shure MV88+は、Lightning®コネクタまたはUSB-Cコネクタを使用してモバイルデバイスに直接接続できるプロ品質のコンデンサーマイクロホンです。ミッドサイド構成とした2つのマイクロホンカプセルによりステレオイメージを調整可能としたことで、音楽やスピーチなど多種多様な音源の収音に対応しています。ShurePlus MOTIV™アプリを使用することにより、デジタル信号処理（DSP）のプリセットモード選択、ゲイン調節、コンプレッサー、およびステレオ幅調節で音質をカスタマイズできます。

特長

ミッドサイドステレオ

定評のあるミッドサイドステレオ録音テクニックをサポートしています。カーディオイドカプセルと双方向性カプセルを同時に使用してステレオ幅を調整し、優れたモノラル機能を提供します。

プラグ&プレイ

iOS、Android、PC、およびMacデバイスと互換性があります。

注：推奨されるAndroidデバイスについては、<https://www.shure.com/MOTIVcompatibility>を参照してください。

コンパクトで高い耐久性

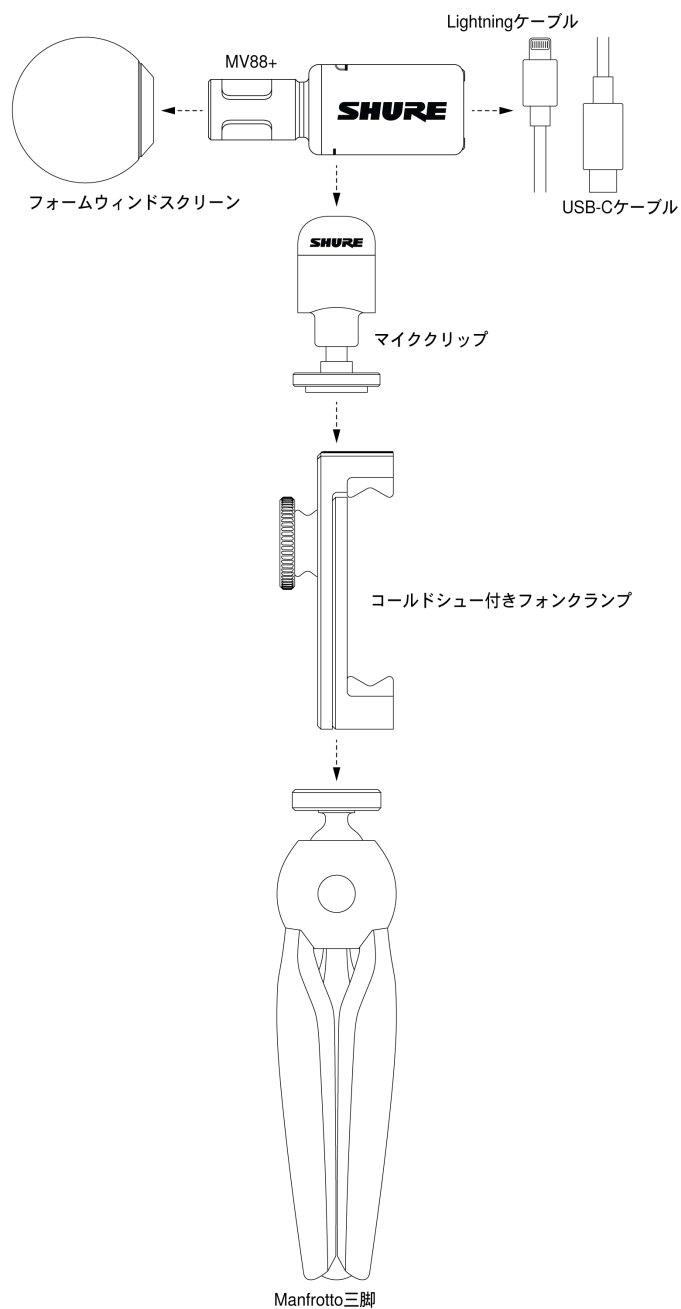
軽量、オールメタル構造で、さらにどこにでも携帯できるコンパクトさを備えています。すべてのShure製品と同様に、現場での信頼性が確保されています。

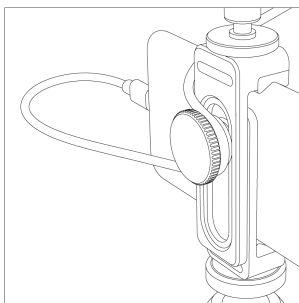
Shure MOTIVアプリによる柔軟な録音コントロール

Shure MOTIVレコーディングアプリでは、ゲイン、ステレオ幅、プリセットモードなどのマイクロホン設定を調節できます。また、以下の機能も備えています。

- 横向きと縦向きの録音オプション
- 基本的なオーディオ編集
- Markersによるオーディオのトラッキング
- 暗い照明下での録音向けのダークテーマ
- すべてのMOTIVマイクロホンのサポート
- 5バンドイコライザー
- ライブストリーミング機能
- Dropbox™、AirPlay®、およびBluetooth®のサポート
- 出荷時プリセットおよびカスタムのユーザープリセット
- デモモードでの仮想マイクオプション
- 複数のビット深度とサンプルレートのオプション

クイックセットアップ マイクロホンの取付方法





注：フォンクランプの背面にあるノブを使用して、ケーブルを所定の位置に保ち、カメラの邪魔にならないようにします。

ShurePlus MOTIVアプリによるオーディオ録音。

MOTIVアプリを使用してマイクロホン設定を変更し、オーディオを録音および編集します。

1. マイクロホン設定を調整します。

録音状況に合ったプリセットモードを選択します。マイクロホンゲインとステレオ幅を録音に最適になるように調節します。マイクの設置については「マイクロホンの角度設定」を、コンプレッサー、イコライザーなどの調節の詳細については「MOTIVアプリ」を参照してください。

2. お使いの機器を「機内モード」と「おやすみモード」に設定します。

これにより、着信電話やアプリの通知などの音によって邪魔されることなく録音できます。

3. 設定をテストします。

テスト録音を行います。再生を聴き、必要に応じて設定を調節します。録音を開始されると、調節できるのはマイクゲインのみとなります。

4. 赤いRecordボタンを押して録音を開始します。

このマイクロホンは、最後にMOTIVアプリを使用したときの設定を保持します。

MV88+ マイクロホン

MV88+は2つのカプセルを備えています。1つはカーディオイドパターンで、マイクロホンの前方向からの音声を直接捉えます。もう1つのカプセルは双方向性で、左側と右側からの音を捉えます。

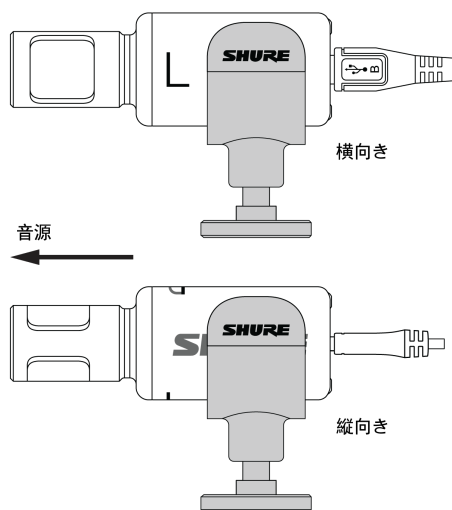


マイクロホンのカートリッジ

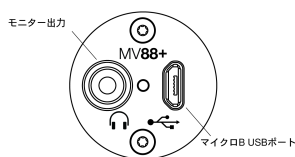
マイクロホンの向き

ステレオ録音を正確にするために、マイククリップでマイクロホン円筒部を回転させます。マイクロホンの前面を音源の方向に向けます。横向き（横）録音の場合は、LおよびRインジケータを左右に表示します。縦向き（縦）録音の場合は、マイククリップでマイク円筒部を回転させます。

注：このアプリには、オーディオチャンネルを入れ替えるLeft-Right Channel Swapが搭載されています。



MV88+ 出力



- ヘッドホンとイヤホンに接続するための3.5 mmモニター出力
- マイクロB USBポートを使用した録音デバイスへのオーディオの送信

MV88+ LED

iOS	Android/Mac/PC
緑色：マイクはアクティブで、オーディオフロー中です	緑色：電源がオンです
オレンジ色：エラー	
オレンジ色に点滅：ファームウェアがアップデート中です	
赤色：マイクロホンはミュートボタンにより消音されています	
赤色に点滅：オーディオでクリッピングが生じています	

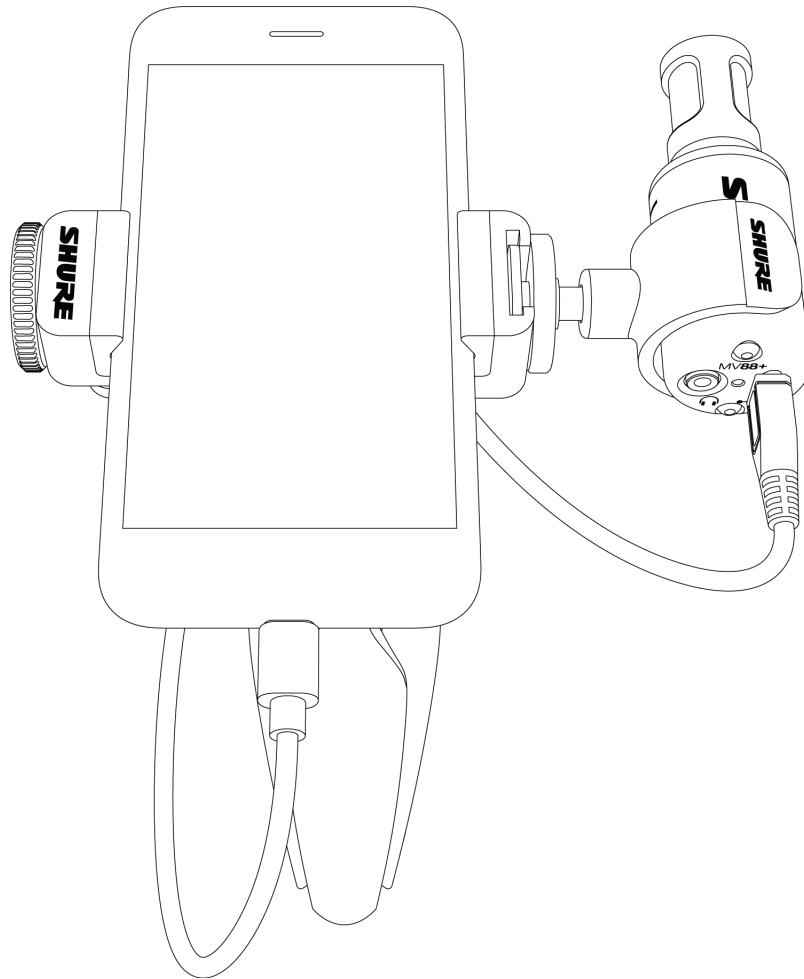
マイクロホンの角度設定

以下は、一般的な使用事例における推奨事項です。音源を録音するのに効果的な方法は、いろいろあります。試して最善の結果が得られるものを見つけてください。MV88+は標準のA25Dマイククリップに収まります。そのため、マイクスタンドを置ける場所ならどこでも配置できます。

ヒント：ステレオ方向を正しくするには、マイクロホンの上となる側にShureのロゴが来ていることを確認します。ロゴが見えない場合は、それに応じてマイクロホンを調整します。

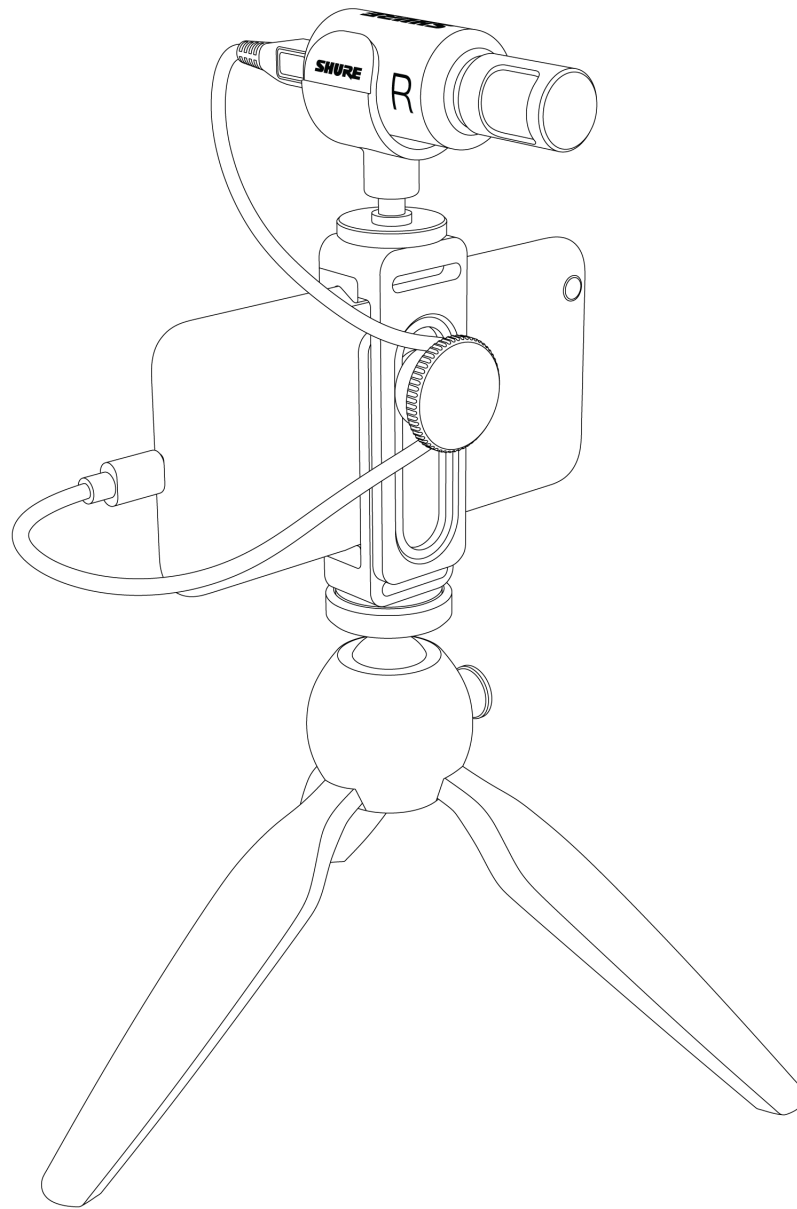
録音

録音をモニターできるように録音デバイスを配置します。マイクロホンの前面を音源に向け、マイクロホン円筒部の左右それぞれが正しい方向に向くようにします。



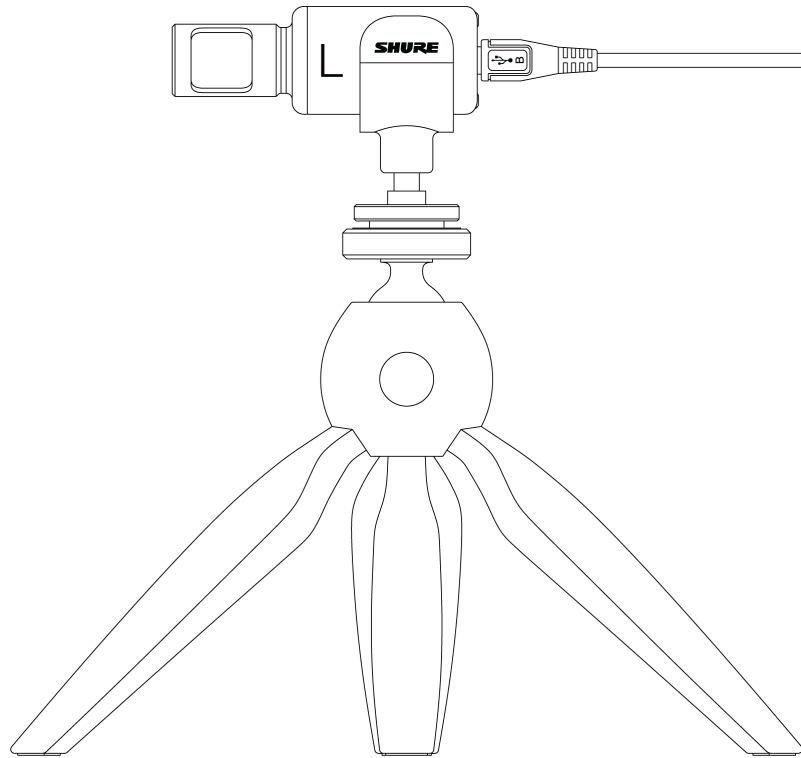
横向き（水平）

マイクロホンの前面を音源に向け、マイクロホン円筒部の左右それぞれが適切な方向に向くようにします。



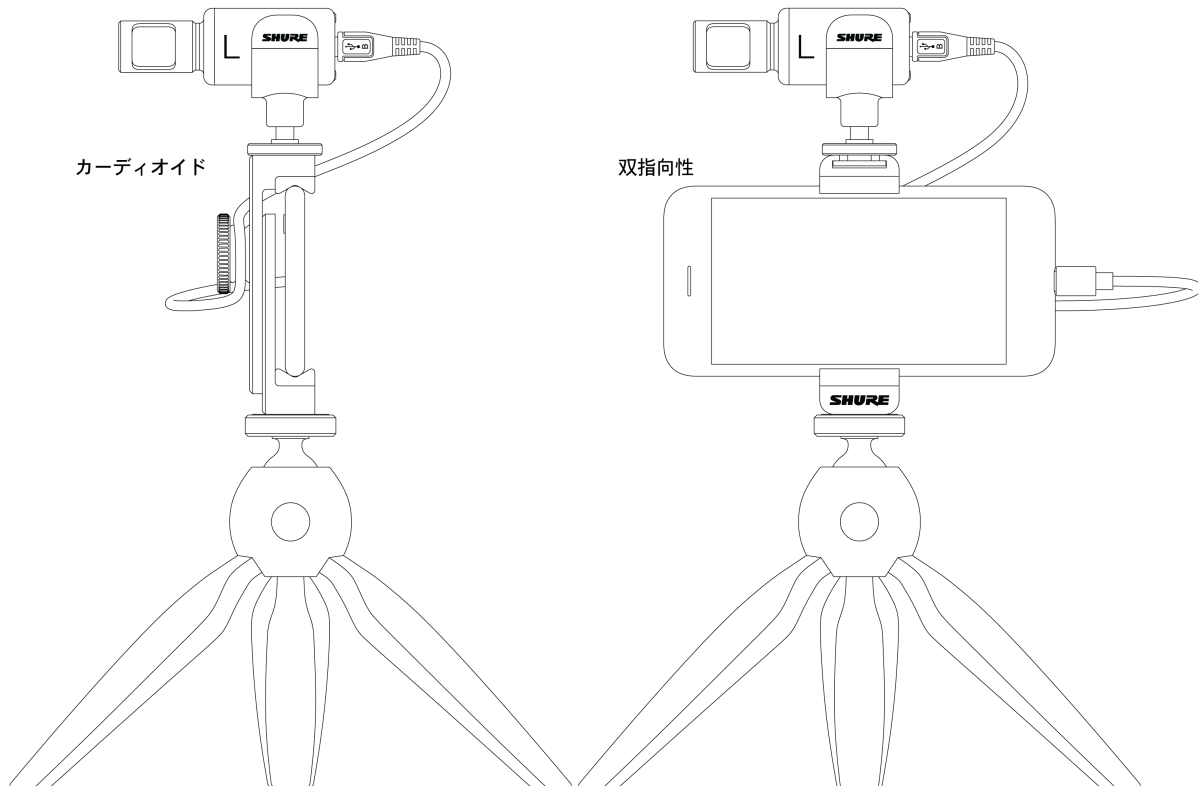
音声インタビュー（卓上）

マイククリップをManfrottoマイクスタンドに直接取り付けます。Shure MOTIVアプリでMONO BIDIRECTIONAL指向特性を選択します。マイクロホン円筒部の片側をインタビューを受ける人に向け、もう一方の側をインタビュアーに向けます。



動画インタビュー

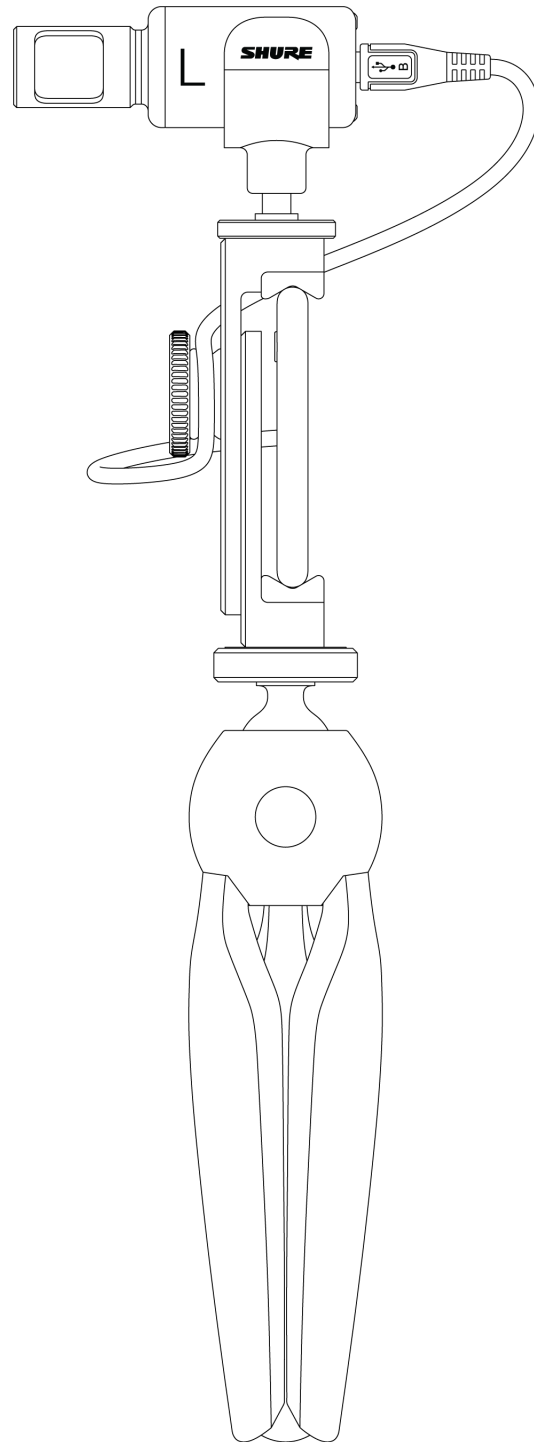
- カメラに映る人の音声のみを録音するには、CARDIOID指向特性を選択して、マイクロホンを被写体に向けます。



- インタビューを受ける人（カメラに映る人）の音声と、インタビュアー（カメラには映らない人）の声の両方を捉えるには、アプリでMONO BIDIRECTIONAL指向特性を選択します。マイクロホンの左側と右側がそれぞれの人を向くように配置します。

ハンドヘルド録音

脚を折りたたんで、ポータブルハンドヘルドスタンドを作ります。

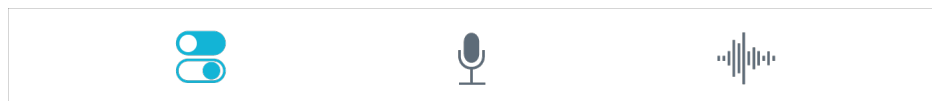


MOTIV アプリ

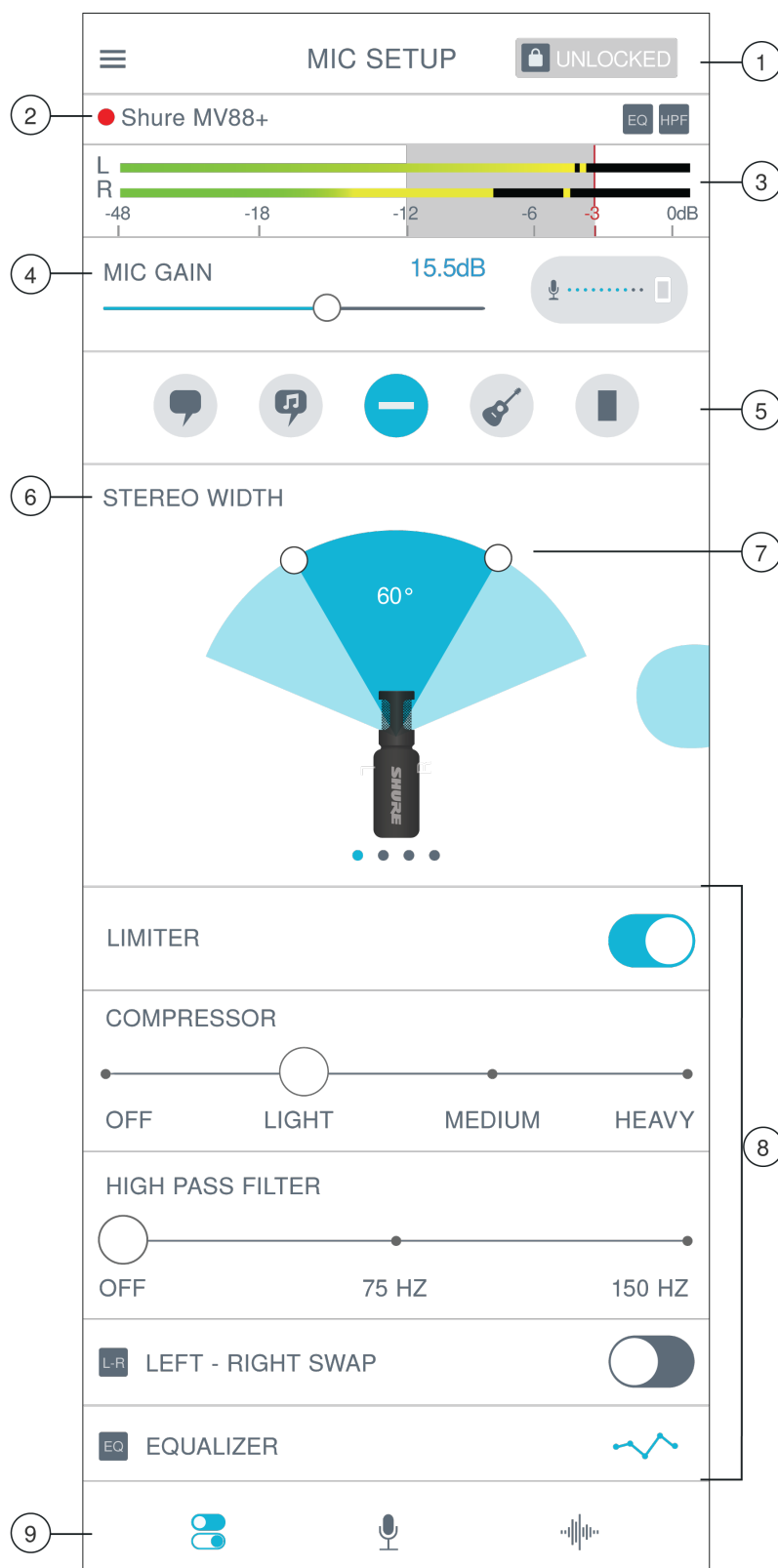
MOTIVアプリを使用して、マイクロホンの設定を変更し、オーディオを録音、編集、および共有します。録音するたびに、デバイスは最近使用した設定を記憶しているため、録音時にすばやくセットアップできます。

ヒント：着信電話、メッセージ、様々な通知によって録音が邪魔されないようにするには、機内モードとおやすみモードをオンにします。

マイクのセットアップ



ナビゲーションバーでMic Setupをタップして、マイクロホンコントロールにアクセスします。



① **ロックモード** 録音中のデバイスの操作で誤って設定を変えてしまわないように、*Locked*と*Unlocked*の設定を切り替えます。マイク設定が*Locked*の場合には、設定画面はグレー表示されます。

② **マイク/録音ステータス** アプリが録音中の場合は、接続されているマイクロホンの名前の横に赤い点が点滅します。アイコンには、使用中のエフェクトが表示されます。

③ **入力メーター** モノないしステレオの入力信号の強さを表示します。最大ピークが目安の範囲（入力メーターの網掛け部分-12～0 dB）に収まるようにします。

④ **マイクロホンゲイン/モニターミックスボタン** マイクゲインスライダーを調節して音源の音量を設定します。ボタンをタップしてモニターミックス設定にアクセスします。モニターの調節の「モニターミックスブレイド」を参照してください。

⑤ **プリセットモード** アプリケーションに最適なステレオ幅、イコライザー、およびコンプレッサーが設定されます。詳細については、「プリセットモード」を参照してください。

⑥ **指向特性の選択** スワイプして、使用する特性を選択します。ハンドルを使ってステレオイメージの幅を調節します。

ヒント：幅を調節する際には、マイクロホンの位置と音源の大きさを考慮します。例えば、大きなオーケストラやアンサンブルの録音では、広い幅のステレオイメージが有効とすることで、各楽器間のセパレーションを高めます。スピーチでは、明瞭さを高め、周囲（室内）の雑音を入らなくするには幅を狭めることが有効です。






⑦ **ステレオ幅ハンドル** ドットを使用してステレオ幅をすばやく設定します。

⑧ **拡張機能** リミッターとコンプレッサーのコントロール、ハイパスフィルター、左右チャンネル入替、イコライザー設定により録音時の細かな調整を行います。

⑨ **ナビゲーションバー** タップして *Mic Setup*、*Record*、および *My Recordings* 画面にアクセスします。

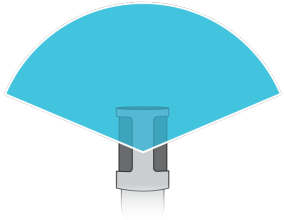
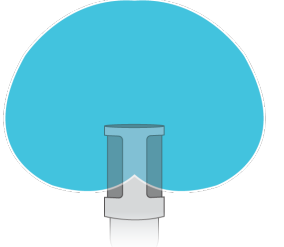
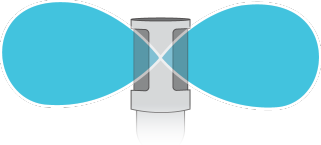
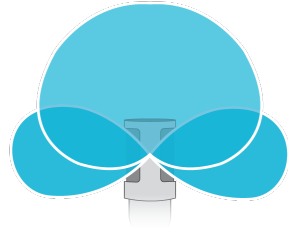
プリセットモード

5つの選択可能なモードにより、ゲイン、ステレオ幅、イコライザー、コンプレッサーの設定を最適化できます。マイクロホンのレベルを設定したら、各モードを試して最適な音を見つけます。プリセットモードは入力信号の強度に影響するため、プリセットを変更した後に必要に応じてマイクロホンレベルを調整してください。

モード	用途	特性
 スピーチ	発言	狭いステレオ幅により背景のノイズを排除、明瞭度と豊かさを高めるイコライジング、さらに軽めの圧縮が行なわれます。
 歌声	ソロまたはグループでのボーカルパフォーマンス	中程度のステレオ幅と控えめなイコライジングにより豊かさと明瞭さを高めた自然なサウンドです。
 フラット	あらゆる用途	未加工の信号です（イコライザーやコンプレッサーは使用されません）。録音後に音声処理する場合に柔軟性を発揮します。
 アコースティック	アコースティック楽器や静かな音楽	透明な圧縮により、音量のスパイクを取り除き、静かな楽句を引き立たせます。ディテールを強調し、全体的に自然なサウンドとしたイコライザー設定です。
 大音量	ライブ演奏や大きい音源	広いステレオ幅により音源のセパレーションを高めます。楽器の音の混濁を生じさせる可能性のある周波数をイコライジングにより低減し音の明瞭度を高めます。

指向特性の選択（ステレオとモノラルの設定）

以下にマイクロホンカプセル特性を示します。モノモードで動作しているときは、ステレオ幅は調節できません。

	ステレオ	前 = オン 左右 = オン
	モノカーディオイド	前 = オン 左右 = オフ
	モノ双指向性	前 = オフ 左右 = オン
	Rawミッドサイド	前 = オン 左右 = オン 詳細については、「Rawミッドサイド出力」を参照してください。

Rawミッドサイド出力

処理後の柔軟性を高めるには、*Raw Mid-Side*設定を使用します。これにより、ステレオイメージ付きの2チャンネル信号を録音でき、トラックの録音後でも調節が可能です。

左：カーディオイド（前）

右：双指向性（左右）

ミッドサイドステレオマトリクスデコーダーを備えたオーディオ録音アプリケーションの*Raw Mid-Side*設定を使用します。または、手動デコード命令を使用して、録音されたトラックのステレオイメージを調整します。

マニュアルデコーディングとステレオ幅の調整

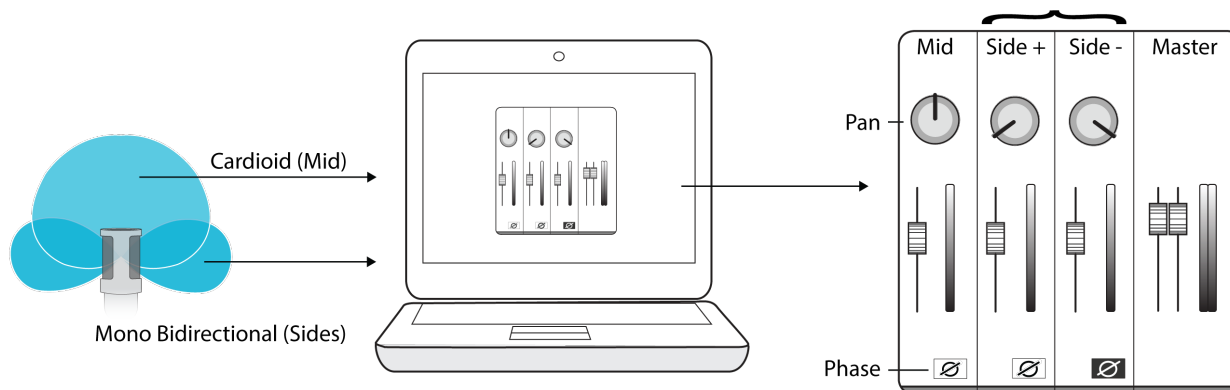
お使いのデジタルオーディオワークステーションソフトウェア（DAW）がミッドサイドデコーダーを備えていない場合は、以下の手順によりステレオイメージを調整および操作できます。

- 2チャンネルの*Raw Mid-Side*ファイルから左右の音声信号をそれぞれ独立したモノトラックとして取り出します。
- 空のオーディオトラックを3つ作成します。

1番目のトラック	左チャンネルのみの音声信号（前/カーディオイド）をモノラルトラックとして使用し、パンはセンターにします。
2番目のトラック	右チャンネルのみの音声信号（左右/双指向性）をモノラルトラックとして使用し、パンは左振り切りにします。
3番目のトラック	2番目のトラックから左右/双指向性の信号をコピーします。このトラックのパンは右振り切りとし、位相を逆にします。

3. 左右のトラックをグループにして、同時に同じ音量レベルに調節できるようにします。グループ化したトラックの音量を上げるとステレオ幅が広がり、下げると幅は狭くなります。

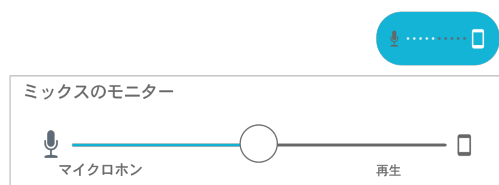
高度なテクニック：アタックの速いコンプレッサーをグループ化したトラックに使用すると、**過渡期**（ドラムスティックでシンバルを叩いたときの最初の部分の音）がステレオイメージの中央に保たれ、音が減衰するにつれてステレオ音場内に広がります。



Rawミッドサイドオーディオのマニュアルデコーディング

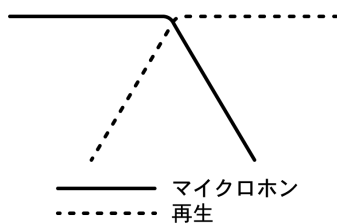
モニターミックスブレンド

[Monitor Mix] ボタンをタップして、モニターコントロールを表示します。



モニターミックススライダーを使用して、各入力がどの程度聞こえるかを確認します。最良の結果が得られるように、中間点でモニターを開始して調整します。

- スライダーをマイクロホンアイコン (MIC) の方に移動して、現在録音されているオーディオの詳細を聞くことができます。
- スライダーをデバイスアイコン (PLAYBACK) の方に移動して、現在録音されているオーディオの詳細を聞くことができます。



左右チャンネル入替



ステレオ録音の場合は、*Left-Right Swap*を使用して、左右のオーディオチャンネルを入れ替えてステレオイメージと動画を一致させることができます。例えば、動画を使用して自分を録画する場合などです。

ヒント：マイクロホン円筒部にあるLとRの表示を使用します。これにより、実際に録音を行わなくとも*Left-Right Swap*を設定できます。

イコライザー、リミッター、コンプレッサー



イコライザー、リミッター、コンプレッサーの設定を細かく調整できます。プリセットモードを変更してDSPの変化を聴き、個別の設定を調整して音質を整えます。

注：プリセットに適用されているイコライザーの状態は表示されません。マイクセットアップ画面のEQアイコンをタップすると、ユーザーが設定したイコライザー設定が表示されます。

EQはプリセットモードが変わるまで持続します。

圧縮なしを選択するか、軽、中、または重設定を選択します。

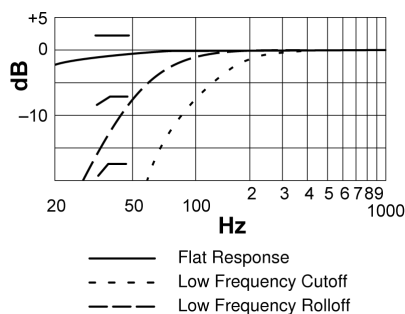
低域特性の選択

マイクロホンの背面にある3ポジション切替えスイッチにより、低周波レスポンスを調整できます。低周波フィルターを使用すると、ウィンドノイズ、ルームノイズまたは近接効果を低減できます。

フラットレスポンス。ほとんどの用途で自然なサウンドを再現します。

低周波数カットオフ。75 Hzで、オクターブあたり6 dBのカットオフを提供します。床を伝わる振動音や冷暖房装置による低周波の室内雑音を低減します。この設定はまた、近接効果の補正、または楽器の音を鈍くさせたり濁らせたりする低域を低減させるためにも使用できます。

低周波数ロールオフ。150 Hzで、オクターブあたり6 dBのロールオフフィルターを提供します。これを使用し、近接効果の補正、または楽器の音を鈍くさせたり濁らせたりする低域を低減させるためにも使用できます。



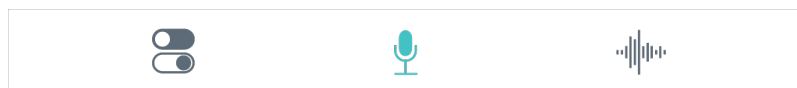
デモモード



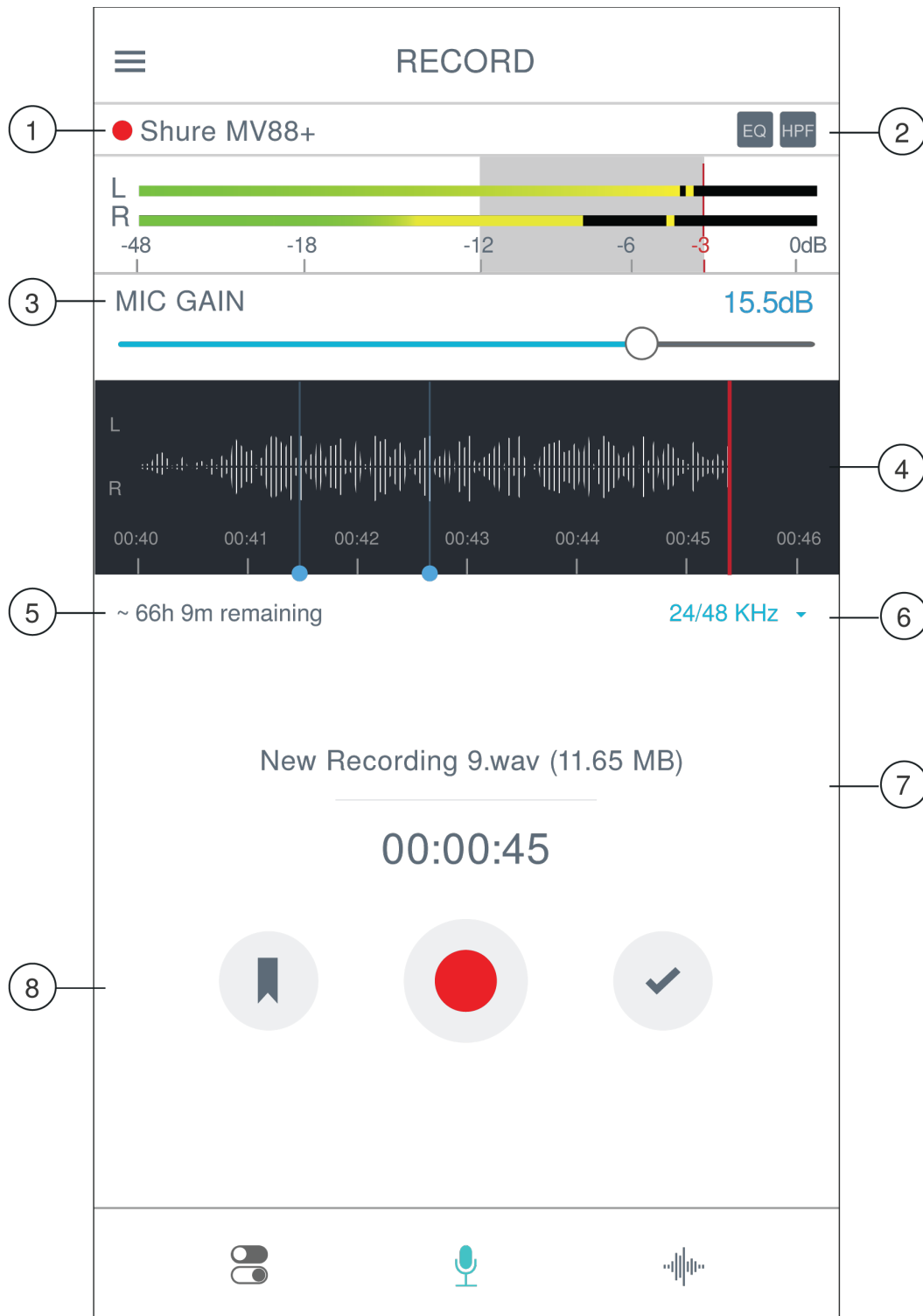
デモモードでは、MOTIVシリーズのすべてのデバイスの機能を試すことができます。Shure MOTIVアプリでのそれらの機能を、マイクロホンを接続せずに探索します。

注：デモモードでの設定はデモンストレーション用であり、アプリ内に保存されません。デモモードは、デバイス内に接続されているマイクロホンがない場合にのみ使用できます。

録音



ナビゲーションバーでRecordをタップすると、録音ボタンとタイムラインにアクセスできます。



録音設定

① 接続されているデバイスのステータス

ステータスには、MOTIVデバイスか、または内蔵マイクロホンから音声を受信されているかどうかが表示されます。赤色の点滅ドットは録音が進行中であることを示します。

② 設定のステータス

現在利用可能な高度な設定のアイコンが表示されます。

③ マイクロホンゲイン

音源の音量を調整します。レベルは目安の範囲内（入力メーターの網掛け部分）とします。

④ タイムライン表示

録音中に音の波形を表示します。

- ステレオ録音：完全な波形が表示されます。
- モノラル録音：波形の半分が表示されます。

⑤ 残りの録音時間

⑥ ビット深度およびサンプルレート

ドロップダウンメニューを使用して、ビット深度とサンプルレートを選択します。詳細については、「ビット深度およびサンプルレート」を参照してください。

⑦ トラック情報

現在の録音の名前、ファイルタイプ、およびサイズが表示されます。

⑧ 録音コントロールバー

Markerボタン、Record/Pauseボタン、Doneチェックマークボタンがあります。

注：録音の最大ファイルサイズは2 GBで、録音可能時間は約2時間です。この制限により、アプリのパフォーマンスが最大化されます。2時間を超える連続録音では、2つ目のファイルが生成されます。

ビット深度およびサンプルレート

「ビット深度およびサンプルレート」設定は、録音画面の右側のドロップダウンメニューに表示されます。小さなファイルの方が便利な場合、例えばダウンロード用のスピーチやポッドキャストを録音するときなどは、低いサンプルレートを選びます。音楽やダイナミックな録音を行う場合は、サンプルレートを高くします。

特に何も選ばない状態では、MOTIVは音声を24/48 kHzで録音します。以下のビット深度とサンプルレートがサポートされます。

ビット深度	サンプリングレート
24	48 kHz
24	44.1 kHz
16	48 kHz
16	44.1 kHz

録音のヒント

機内モードとおやすみモードをオンにする

MOTIVデバイスをiOSデバイスに接続すると、機内モードとおやすみモードに設定するよう促す注意メッセージが表示されます。着信電話、メッセージ、様々な通知によって録音が邪魔されないようにするには、この設定を行うことが重要です。Xをタップして、この注意メッセージを閉じます。

注：音声ファイルに地理的位置情報を追加するには、機内モードはオフのままにします。

ロックモードを使用してサウンドをロックする

オーディオをテストし、必要なレベルを見つけたら、ロックモードをオンにして誤って調整されないようにして、オーディオ品質の一貫性を保ちます。

モノラルでの録音

利用可能な録音時間を増やしたり、ボーカルなどの単一の音源を録音する場合にはモノラルで録音します。周囲のノイズを低減するメリットも得られます。Mono CardioidまたはMono Bidirectionalの指向特性を選択すると、すべてのカプセルからの音声は1つのチャンネルにまとめられます。入力メーターには波形の上半分が表示され、モノラル録音であることを示します。MOTIVはモノラル録音において他社製マイクロホンに対応します。

ステレオでの録音

縦向きと横向きの録音に対応するには、MV88+円筒部をマイククリップで回転させます。マイクロホンのステレオの向きを示すために、LとRのラベルが付いています。Shureロゴが上面にあるとき、ステレオイメージは正しくなります。

ダークテーマを使用

ダーク表示オプションを選択すると、アプリが明るいグレイから濃いグレイに変わります。暗い表示は、照明が暗い環境で目立たず録音を行うのに最適です。

ダーク設定にアクセスするには、*Menu > Settings > Appearance > Dark*。

完全にパフォーマンスを捉えるには

音源全体を確実にキャプチャするには、演奏が始まる前に録音を開始し、後で録音を編集して無音部分をトリミングします。

注：録音中にマイクロホンの接続が誤って外れてしまった場合、MOTIVは録音を自動的に停止します。ファイルの保存ダイアログが表示され、オーディオに名前を付けて保存するよう促します。

録音をモニターする

録音を素晴らしいサウンドにするために、MOTIVデバイスのヘッドホン出力にヘッドホンを直接接続します。

録音中に画面を起動状態に保つ

録音中に自動スリープ無効 (Keep Awake) オプションを選択すると、画面が暗くならず長時間の録音セッション中もゲインレベルを継続的に監視できます。

自動スリープ無効オプションにアクセスするには、*Menu > Settings > Keep Screen Awake During Recording*。

注：スリープモードを無効にすると、録音中のバッテリー時間に影響します。

アップデート中は機器を接続したままにする

DSPをアップデートする際には、アップデートの問題がないことを確認するために、MV88+をモバイルデバイスに接続したままにします。

MacとPCでMV88+を使用する

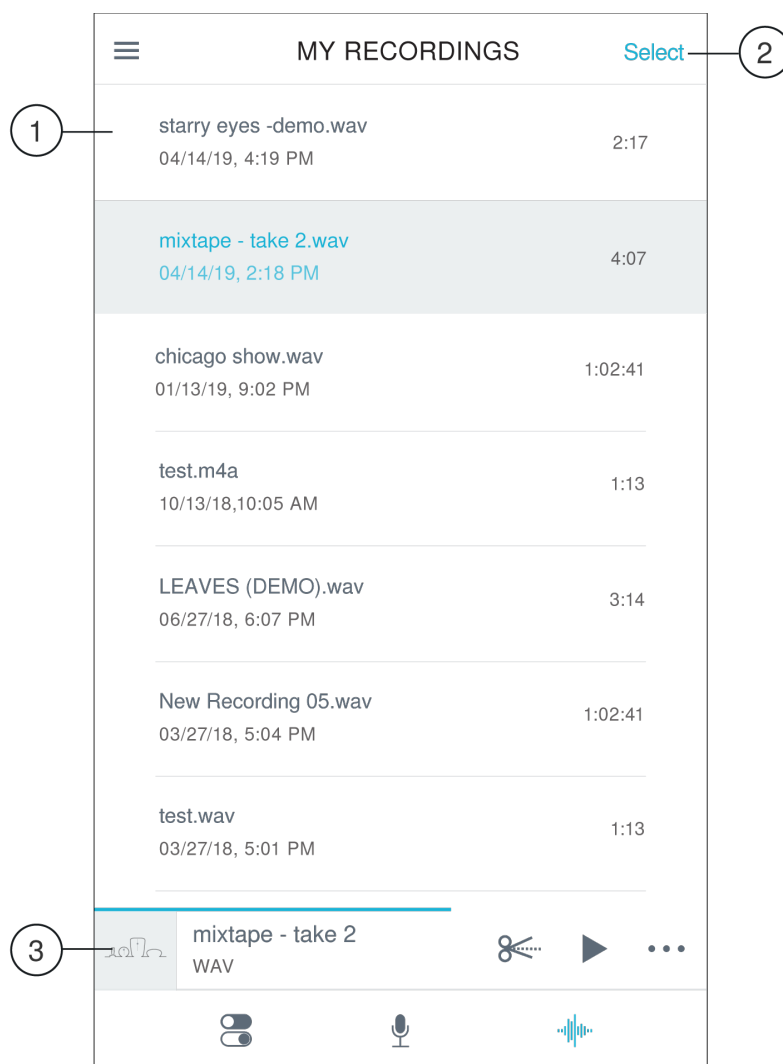
MOTIVマイクロホンは特別なドライバーは不要で、ほとんどのMacまたはPCと互換性があります。ただし、MV88+の設定（マイクゲイン以外）はコンピューターから調整できないため、マイクロホンではMOTIVアプリで構成された最後の設定が維持されます。

注：USB-Aケーブルは含まれていません。

マイレコーディング



ナビゲーションバーでMy Recordingsをタップすると、録音したトラックの再生と編集が行えます。



マイレコーディングのプレイリスト

① トラックリスト

録音済みトラックのリストが表示されます。

② セレクトボタン

Selectボタンにより、変換、共有、削除する録音を1つもしくは複数選択します。

③ オーディオプレーヤー

*Edit*アイコンをタップしてエディターにアクセスします。録音を再生、一時停止します。3つのドットをタップすると、名前変更、共有、オーディオ変換または削除機能にアクセスできます。

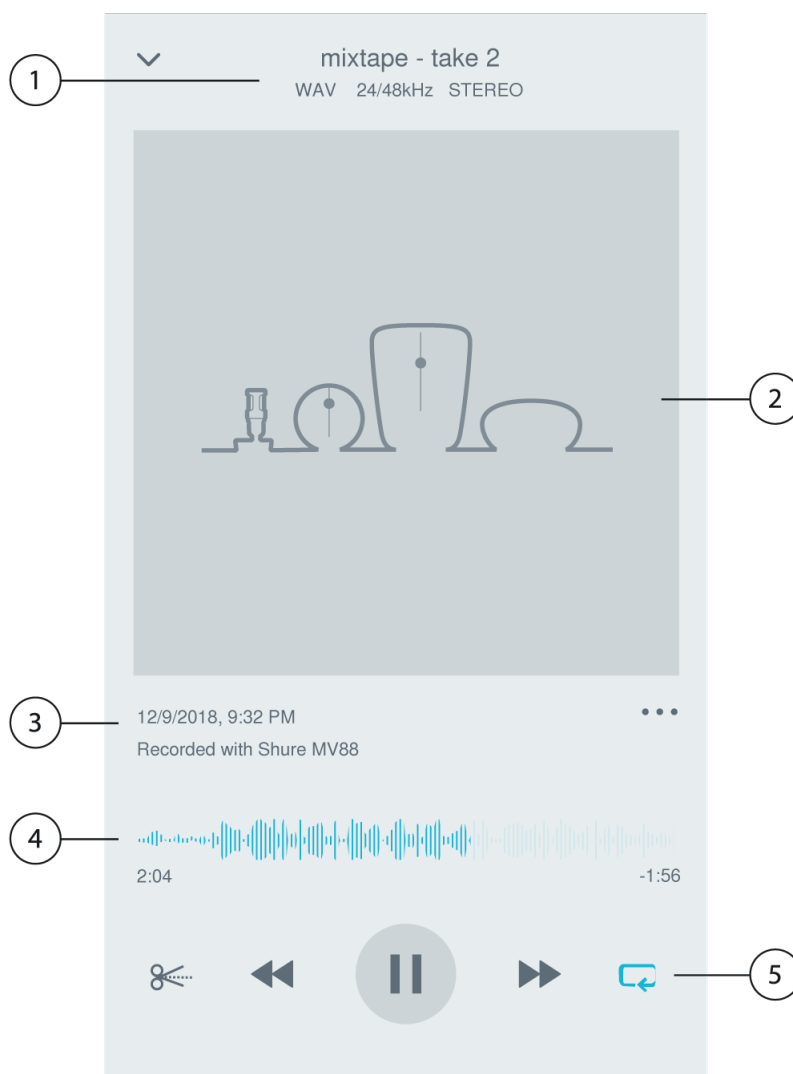
複数ファイルの変換

Shure MOTIVでは複数のファイルを一度に変換、共有、または削除できます。WAVファイルのみ変換可能です。

1. マイレコーディング画面の右上隅にある>Selectをタップします。
2. 変換するファイルをすべて選択します。選択したファイルの横には青のチェックマークが表示されます。
3. *Save As*をタップして変換オプションを表示します。ファイルの変換により、新しいファイルがマイレコーディングリストに追加されます。

再生

オーディオプレーヤーでトラック名をダブルタップすると、再生画面が開きます。



① トラック情報

現在再生中のトラックの情報として、タイトル、ファイル形式、ビット深度、サンプルレート、トラックがステレオかモノラルかが表示されます。

② トラックのアートワーク

MOTIVアートワークを保持します。または、アートワークをデバイス内の写真のイメージでカスタマイズします。「トラックアートワークのカスタマイズ」を参照してください。

③ 録音履歴

トラックを録音した日時および使用したマイクロホンを表示します。

④ 再生タイムライン

トラックのどの部分を現在再生しているかを確認できます。タイムラインの下には、経過時間と残り時間が表示されます。

⑤ 再生コントロール

トラックの*Edit*、*Rewind*、*Play/Pause*、*Fast-Forward*、および*Loop*を行います。

オーディオの編集



*Edit*をタップすると、各トラックの編集機能にアクセスできます。

MOTIVエディターにより、友人やオンラインでの共有の前に録音データに手を入れることができます。

編集は、次の2つモードから選べます。

- *Split Mode*では長いオーディオファイルを1つ以上の別々のトラックに分割することができます。これは、長時間のパフォーマンスを録音したときに、異なる部分を個々に聴けるようにする際に便利です。
- *Trim Mode*では、録音したトラックの先頭と最後をトリミングできます。

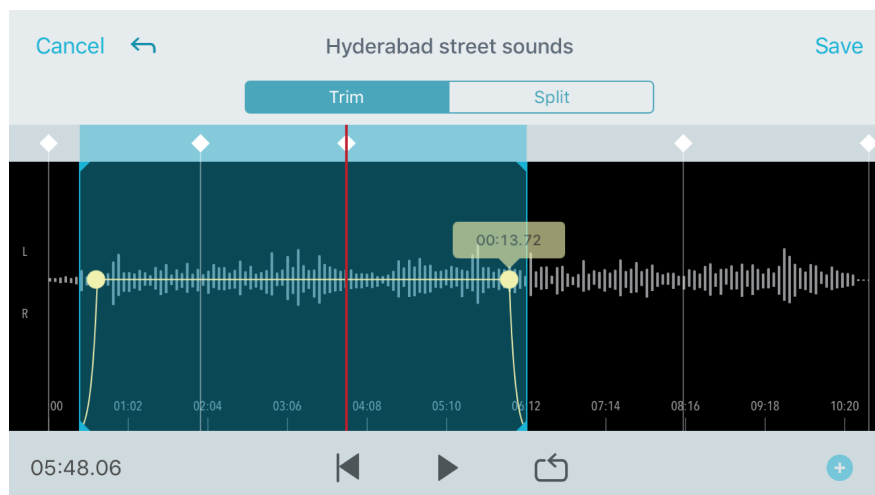
タイムラインの操作

タイムラインを移動するには3つの方法があります。

- タイムラインをダブルタップすると、再生ヘッドが現在のビューに移動します。
- マーカーを使用して、再生ヘッドを特定のポイントに移動します。
- 赤いプレイヘッドバーをタップしてドラッグすると、タイムライン内の新しいポイントに移動できます。

*Play*を押すと、選択したそのポイントから再生が始まります。

ズームアウトするには2本の指を一緒に挟みます。ズームインするには、画面上で2本の指を広げます。



エディターで横向きにすると波形の表示範囲が広がります。

ループの作成



オーディオの選択部分だけの繰り返しとするには、ループを作成します。

- ループボタンを押すと、トラック全体が選択されます。ハイライトされた青いエリア内の波形がループされます。
- タイムライン上のマーカーを選択しドラッグしてループを調節します。
- *Play*を押してループを聴き、希望のサウンドとなるように調節します。

マーカー



マーカーは、録音上の特定のポイントに戻るためのオーディオブックマークです。再生の開始と終了点に影響することなく、参照として利用できます。*Split*モードでは、マーカーの位置がファイルの分割点となります。マーカーは時、分、秒、ミリ秒 (00:00:00:00) により識別されますが、マーカー間は2秒以上離す必要があります。

録音モードでのマーカー

マーカーの追加: *Marker*ボタンをタップすると、プレイヘッドの位置にマーカーが挿入されます。

編集モードでのマーカー

オーディオトラックの開始マーカーと終了マーカーが入ったマーカーリストが開きます。

特定のポイントからの再生: いずれかのマーカーをタップすると、そのマーカーポイントから再生を開始します。

マーカーの追加: プラスマークを押すと、プレイヘッドの位置にマーカーが挿入されます。

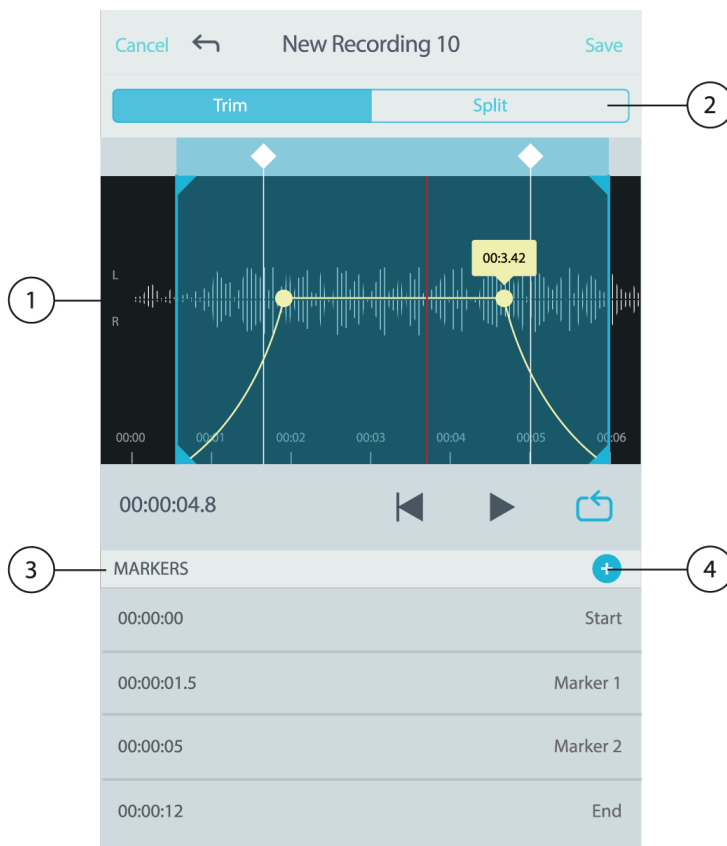
マーカーの移動: 既存のマーカーを押してドラッグすると、タイムライン上の新しい位置に移動できます。

マーカーリストの使用：リスト内のマーカーをタップすると、プレイヘッドがその位置に移動します。

マーカーの名前変更：リスト内のマーカーラベルを押し続けます。

マーカーの削除：リスト上のマーカーを左にスワイプすると、削除オプションが表示されます。

エディター



① タイムライン表示

タイムライン全体が表示されます。正確な編集を行うには、ズームインします。

② トリム/分割の選択

編集モードを選択します。

③ マーカーリスト

すべての録音は開始マーカーから始まり、終了マーカーで終わります。詳細は「マーカー」を参照してください。

④ マーカーの追加

クリックすると、再生ヘッドの位置にマーカーが追加されます。

トリムモードでの編集

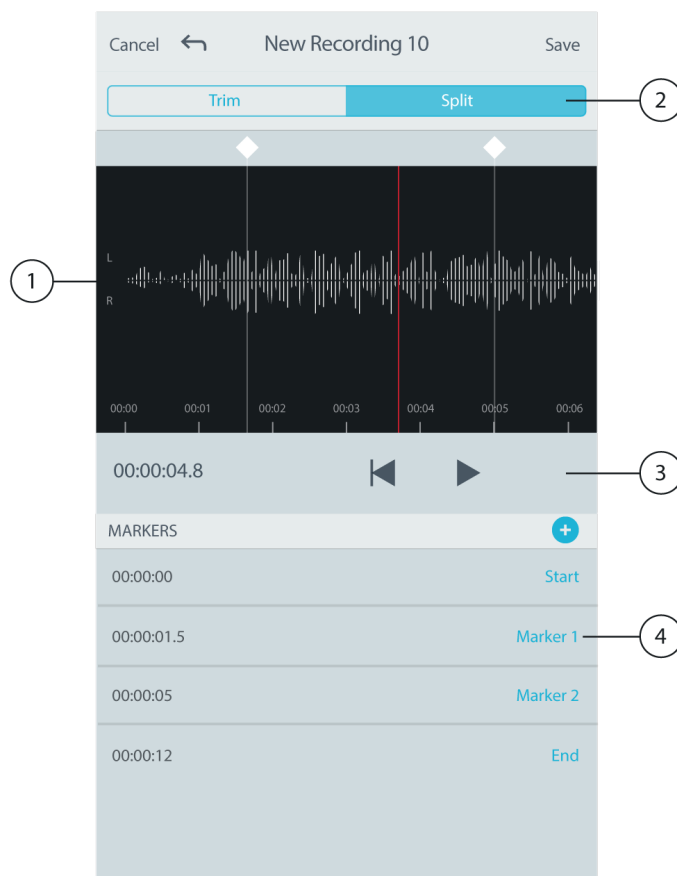
*Trim*モードは、オーディオトラックの始まりと終わりの余分な部分をカットするために使用します。

1. *My Recordings*から編集したいオーディオファイルを選択します。
2. *Edit*アイコンを選択してエディターを開きます。
3. 青い線は、トラックの開始点と終了点を表します。青い線を選択してドラッグし、開始時刻と終了時刻を調整します。

4. ループ再生するにはLoopを選択し、編集を確定する前にトラックを聞くことができます。

ヒント：iOS機器で最後に実行した操作を取り消すには、機器をシェイクします。Undoに最後のアクションまたはCancelを要求するポップアップが表示されます。

分割モードでの編集



① タイムライン表示

タイムライン全体が表示されます。正確な編集を行うには、ズームインします。

② トリム/分割の選択

編集モードを選択します。

③ 再生コントロール

トラックのLoop、Rewind、Play/Pause、Add Bookmarksを行います。

④ マーカーリスト項目

名前、および時、分、秒、ミリ秒単位での位置を表示します。

長いオーディオファイルを小さなオーディオファイルに分割する場合は、分割モードを使用します。元のファイルを保持したまま、新しく編集ファイルを作成できます。

1. My Recordingsから編集したいオーディオファイルを選択します。

2. *Edit*アイコンを選択してエディターを開きます。
3. オーディオを分割するポイントにマーカーを置きます。
4. *Split*を選択します。
5. 元のファイル形式を維持するか、新しい形式を選択します。
6. MOTIVでは元のファイル名を使用しますが、新しく分割されたトラック名には、名前の後に数字が追加されます。分割モードでトラックを半分に分ける場合、マイレコーディングには3つのトラックが表示されます。オリジナルトラックはそのまま残り、*Split*編集で作成された1つ目と2つ目のトラックです。

注：タイムラインをダブルタップすると、その位置でズームインできます。最大で拡大できるズームの長さは2秒です。最大ズームに達した後にダブルタップするとズームアウトします。

MOTIV録音の共有

カメラロールへの保存

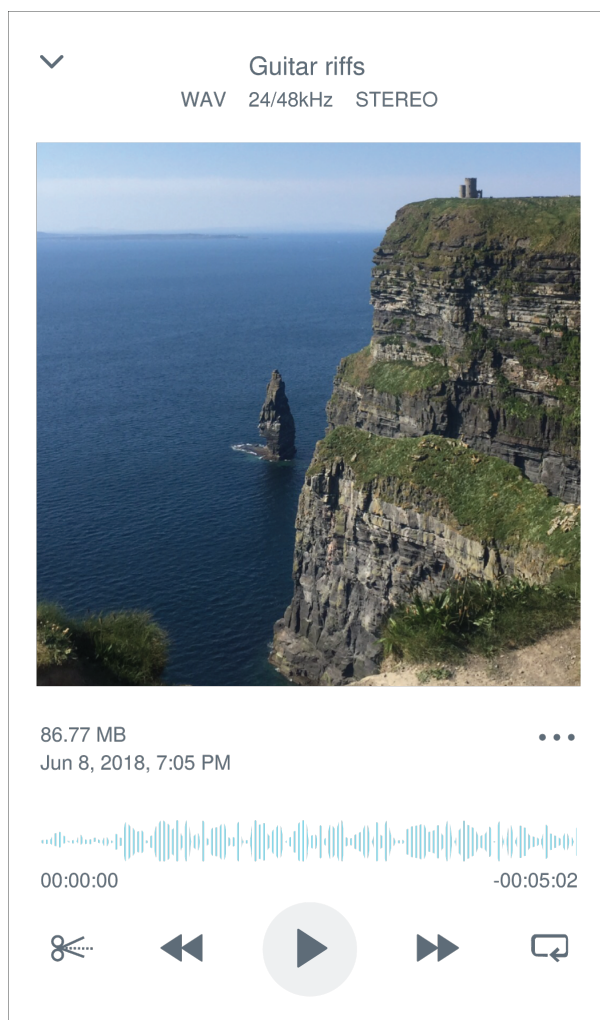
オーディオファイルから動画ファイルに変換すれば、iOS機器のカメラロールからソーシャルメディアで簡単に共有できるようになります。

1. マイレコーディングで、変換したいファイルを選びます。
2. *Share*ボタンを選択します。
3. *Save to Camera Roll*を選択します。
4. 変換は自動的に行われます。大きなファイルの変換には時間がかかります。

注：カメラロールへの保存を初めて行うとき、アプリ間のファイル共有の許可が求められます。誤って許可に同意しないとした場合でも、iOSのデバイス設定からいつでもアクセス許可を変更できます。許可すると、カメラロール内にMOTIVフォルダーが作成されます。

5. 変換処理が完了すると、カメラロールへの保存が済みトラックが共有可能になったことを知らせる通知が表示されます。

トラックアートワークのカスタマイズ



録音にイメージを追加するオプションがあります。

1. [マイレコーディング] タブで、アートワークが必要なファイルを選択します。
2. ファイル名の横にある3つのドットをタップします。
3. *Add Artwork*を選択して、使用可能なイメージファイルを表示します。
4. 写真を選択します。アートワークを変更する場合は、このプロセスを繰り返して別のイメージを選択します。

Dropboxへの保存

MOTIVファイルをDropboxに保存してバックアップコピーを保管したり、iOS機器の使用可能領域を増やしたり、ソーシャルメディアで共有したりできます。

1. MOTIVアプリを開き、マイレコーディングに移動します。
2. 選択ボタンをタップして、1つまたは複数のファイルを選択します。
3. 共有を選択し、Dropboxを選択します。

注: 場合により、MOTIVとDropbox間のアクセスを許可する必要があります。「許可」を選択すると、Dropbox内にMOTIVフォルダーが作成され、アプリがリンクされます。

4. ファイルのアップロードが完了すると、ファイル保存完了通知が表示されます。

注: 大きなファイルのアップロードには時間がかかることがあります。

これでファイルがDropboxにアップロードされ、録音のバックアップコピーを保管したり、それをソーシャルメディアで共有したりできます。

AirDrop[®]とMOTIV

MOTIVは選択した連絡先にAirDropでWAVファイルを送信する機能をサポートしています。

1. MOTIVアプリを開き、マイレコーディングに移動します。
2. 選択ボタンをタップして、1つまたは複数のファイルを選択します。
3. 「共有」、「詳細」の順に選択し、AirDropの連絡先を表示します。

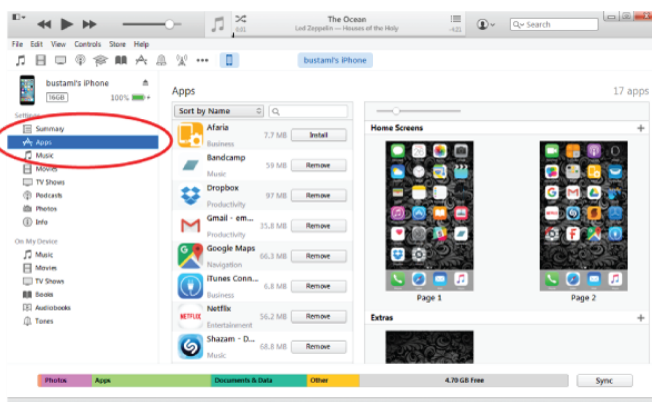
iTunesへの保存

iTunesを使用すると、デスクトップコンピューターとiOS機器の間でオーディオファイルを簡単に転送することができます。

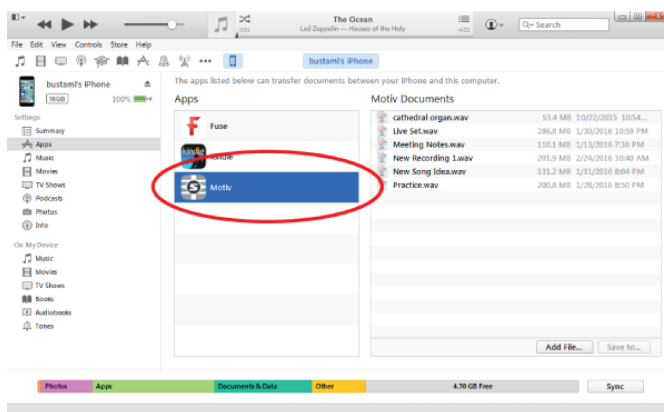
1. iOS機器をコンピューターに接続し、iTunesを開きます。

注: 最新バージョンのiTunesを使用することをお勧めします。

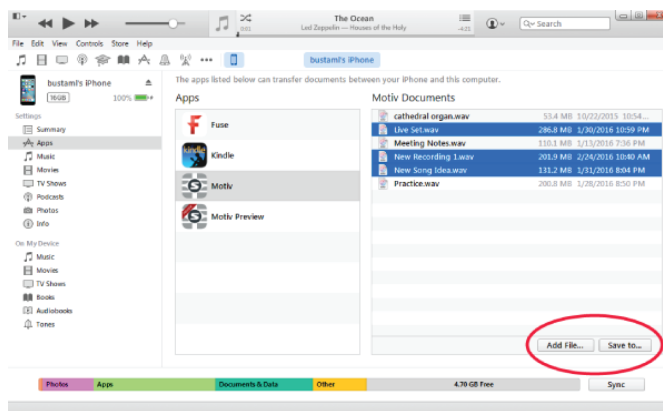
2. デバイスのアイコンを選択し、設定でAppを選択します。



3. 画面下部にあるファイル共有セクションからMOTIVを選択します。右端にあるスクロールバーで一番下までスクロールする必要があるかもしれません。これにより、MOTIVの書類が表示されます。



4. 保存する録音をハイライトし、「保存先」ボタンを選択します。



注：大きなファイルのアップロードには時間がかかることがあります。

これでファイルがコンピューターにダウンロードされ、そのファイルをiTunesライブラリに追加したり、好きなオーディオ編集プログラムへ取り込むことができます。

注：コンピューターからMOTIVアプリにオーディオをアップロードするには、「ファイルの追加」ボタンを使用します。

トラブルシューティング

問題	解決策
マイクロホンが接続されているが、音量メーターに信号が示されない	録音デバイスのプライバシー設定を <i>SETTINGS > PRIVACY > MICROPHONE</i> で編集して、アプリのマイクロホンの使用を許可します。
マイクロホンが接続されているのに検出されない	ケーブルコネクタを取り外して再接続し、アプリがマイクロホンを認識できるようにします。ステータスバーにマイクロホン名が表示されている場合は、接続が安全であることがわかります。
LEDとボリュームメーターから音声が存在するかのように応答されたにもかかわらず、音声が聞こえない	<i>Monitor Mix</i> ブレンドを確認して、音声通過し、再生をモニターできることを確認します。 <i>Monitor Mix</i> スライダーを中央に移動すると、現在録音中の音声と以前に録音された音声を聴くことができます。
音質が悪い、または遠くに聞こえる	接続されているマイクロホンから音声を受信していることを確認します。マイクを取り外して再接続します。ステータスバーにマイクロホン名が表示されている場合は、接続が安全であることがわかります。
音が歪む	オーディオメーターを使用して、音量のピークが目標範囲（灰色の領域）内にあることを確認します。レベルが入力メーターの赤色の表示に達している場合にはゲインを下げます。
ステレオチャンネルの左右が動画と一致しない	録音デバイスの向きに応じて、MOTIV 設定で左右を入れ替える必要があります。オーディオがすでに録音済みの場合は、ほとんどのオーディオ編集ソフトウェアで左右のチャンネルを入れ替えることができます。

注：アプリをリセットして機能を復元すると有効な場合があります。マイクロホンを取り外して再接続し、ハードリセットを実行します。

ファームウェア

ファームウェアは各コンポーネントに埋め込まれたソフトウェアで機能をコントロールします。定期的に新しいバージョンがリリースされ、機能の追加や拡張が行われます。機器のファームウェアをアップデートするには、メッセージが表示された際にファームウェアの新しいバージョンをダウンロードしてください。

ヒント：最良の結果を得るためには、DSPをアップデートする前に、マイクロホンがモバイルデバイスに接続されていること、およびデバイスのバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。アップデートが完了するまで切断しないでください。

システム要件

システム要件および互換性：iOS

- iOS：iOS 11.3以上
- iPhone：iPhone 6以上
- iPod Touch：第5世代

システム要件および互換性：Android

以下を備えているすべてのAndroid機器で作動します。

- Android Marshmallow 6.0以上
- USBホストパワーであること ≥ 100 mA
- USBオーディオクラス1.1対応

Androidは、Google Inc.の商標です。

仕様

MFi認証取得済
取得済

DSPモード（プリセット）
スピーチ/歌唱/アコースティック/ラウド/フラット

トランスデューサータイプ
カーディオイド (10 mm)/双方向コンデンサ カートリッジ (10 mm)

指向特性
ステレオ幅調節可能/Mono Bidirectional/Mono Cardioid/Mid-Side

Stereo Principle
Mid-Side

周波数特性

20 Hz ~ 20,000 Hz

調整可能なゲイン範囲

0 ~ +36dB

感度-37 dBFS/Pa @1 kHz ^[1] ^[2]**最大SPL**120 dB SPL ^[2]**リミッター**

搭載

コンプレッサー

搭載

イコライザー

5バンド

使用電源

USBまたはLightningケーブルにより電源供給

外装

総金属製

質量

ウィンドスクリーンなし	79.0 g (2.78オンス)
ウィンドスクリーン付き	81.5 g (2.87オンス)

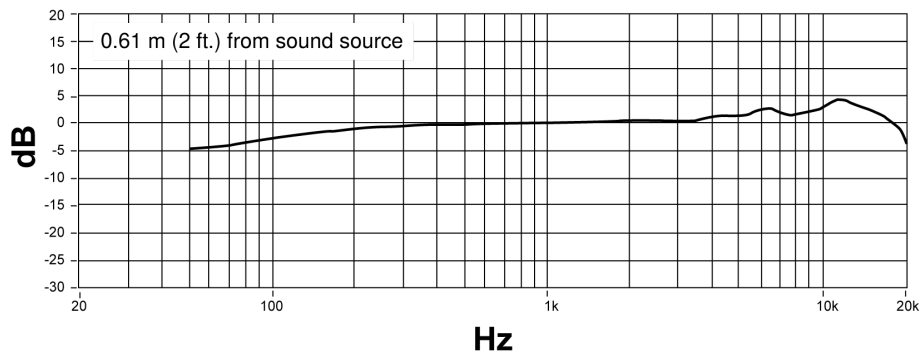
寸法

ウィンドスクリーンなし	27 x 27 x 77 mm 高さ×幅×奥行き
ウィンドスクリーン付き	44 x 44 x 93 mm 高さ×幅×奥行き

^[1]1 Pa=94 dB SPL^[2]最小ゲイン、フラットモードの場合

ビット深度	サンプリングレート
24	48 kHz
24	44.1 kHz
16	48 kHz

ビット深度	サンプリングレート
16	44.1 kHz



周波数特性

アクセサリ

付属品

MV88フォーム ウィンドスクリーン	AMV88-WS
MV88キャリングケース	AMV88-CC
1 15インチUSB-Cケーブル	AMV-USBC15
1 15インチLightningケーブル	AMV-LTG15
Manfrotto卓上三脚	ManfrottoTabletop
モバイルデバイススレッドクランプ	DeviceClamp
カメラシュー付きMV88プラスマイククリップ	MV88PlusMicClip

オプションのアクセサリ

MV88用Rycote Windjammer	AMV88-FUR
------------------------	-----------

認証

ユーザー情報

本機器はテストされFCC規定パート15に従いクラスBデジタル機器に適合しますが、制限があります。これらの制限は、住宅地域において設置する際、有害な電波干渉から機器を適度に保護するためのものです。本機器は電磁波を発生・使用し、放射する場合があります。取扱説明書に従って設置しないと無線通信に電波干渉が起こります。また、設置状況に関わらず妨害を引き起こす可能性もあります。本機器によりラジオやテレビの受信に電波干渉が起こるようであれば（これは、機器の電源を一度切ってから入れるとわかります）、次の手段を1つまたは複数用いて電波干渉を防いでください。

- 受信アンテナを別の方向に向けるか、別の場所に移す。
- 機器と受信機の設置間隔を広げる。
- 受信機を接続しているコンセントとは別の回路にあるコンセントに機器を接続する。
- 販売店または熟練したラジオ/テレビ技術者に相談する。

産業のカナダICES-003コンプライアンスレベル：CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

注：テストは、同梱および推奨のケーブル使用に基づきます。シールド（スクリーン）型以外のケーブルを使用した場合はEMC性能が低下します。

本製品は、関連するすべての欧州指令の基本的要件を満たし、CEマークに適合しています。

CE適合宣言書は以下より入手可能です：www.shure.com/europe/compliance

ヨーロッパ認定代理店：

Shure Europe GmbH

ヨーロッパ、中東、アフリカ地域本部：

部門：EMEA承認

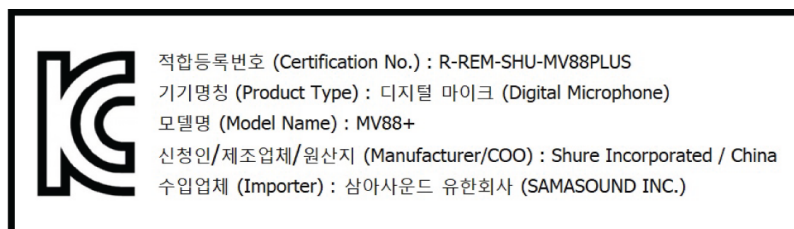
Jakob-Dieffenbacher-Str.12

75031 Eppingen, Germany

TEL：+49-7262-92 49 0

FAX：+49-7262-92 49 11 4

Eメール：info@shure.de



iPhone X、iPhone 8 Plus、iPhone 8、iPhone 7 Plus、iPhone 7、iPhone SE、iPhone 6s Plus、iPhone 6s、iPhone 6 Plus、iPhone 6、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPad Pro（10.5インチ）、iPad Pro（12.9インチ）第2世代、iPad Pro（12.9インチ）第1世代、iPad Pro（9.7インチ）、iPad mini 4、iPad mini 3、iPad mini 2、iPad Air 2、iPad Air、iPad（第6世代）、iPad（第5世代）、iPad（第4世代）、iPod touch用。

iPad、iPhone、iPod、およびiPod touchはApple Inc.の商標であり、米国および他の国々で登録されています。iPad Air、iPad mini、およびLightningはApple Inc.の商標です。iPhoneの商標は、日本ではアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

DropboxおよびDropboxロゴはDropbox, Inc.の商標です。

Shure MOTIVは、Dropbox, Inc.との提携またはスポンサー関係はありません。

PIXI[®]およびManfrotto[®]は、Vitec Imaging Solutionsの登録商標です。ミニ三脚の最大重量：1kg/2.2ポンド。